

(主なやり取り)

## 橋下府知事

知事：府立学校の1クラス当たりの定員は？

部局：40人。

知事：空き教室が増えているのでは？

部局：校舎の建替え時に教室数を減らしている。また、特色化などで新たに教室が必要になることも。

知事：入試は1度しかない？

部局：前期・後期の2回。

知事：本当は公立に行きたかったという人を、全て公立で受け入れる術はないか？こっちが勝手に7:3と決めているから公立にいけない人が出ている。公立のキャパを増やして受入体制を整備することはできないか？

部局：7:3は別として、中学の全卒業生数に対して、7割は公立で受け入れるように作っている。現在、中学卒業生の93.9%が昼間の高校に進学すると想定して、その7:3。

知事：公立でとりあえず希望者は全て受け入れるということはできないのか？1クラスあたり5人や10人の定員を増やせばいける。どうしても公立に行きたいという人を受け入れる体制をとってほしい。早急に検討を。どうしても私立に行きたいという人は別だが、希望者は全て公立で受け入れるべき。入試があるので、好きな学校を自由に選べるわけではないが、受け入れ体制は必要。7:3は公立・私立の経営者同士の割振りの問題ではない。

部局：教委だけでは…。生文とも検討する。

(最後に)

知事：公立に行きたかったのに私立に行かざるを得ないという人をフォローする必要がある。50~60人学級になることも前提に、公立がそういう受入体制を組んだのにも関わらず、あえて私立を選んだということにならないと、私の理論が成り立たない。